

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

100<sup>th</sup>  
UMEMURA  
ベストMAX

# 中京大学スポーツ

Vol.23  
2021 12月号



北京冬季五輪代表選考が本格化!

フィギュアスケート

宇野、三浦・木原ペアが好調

ショートトラック

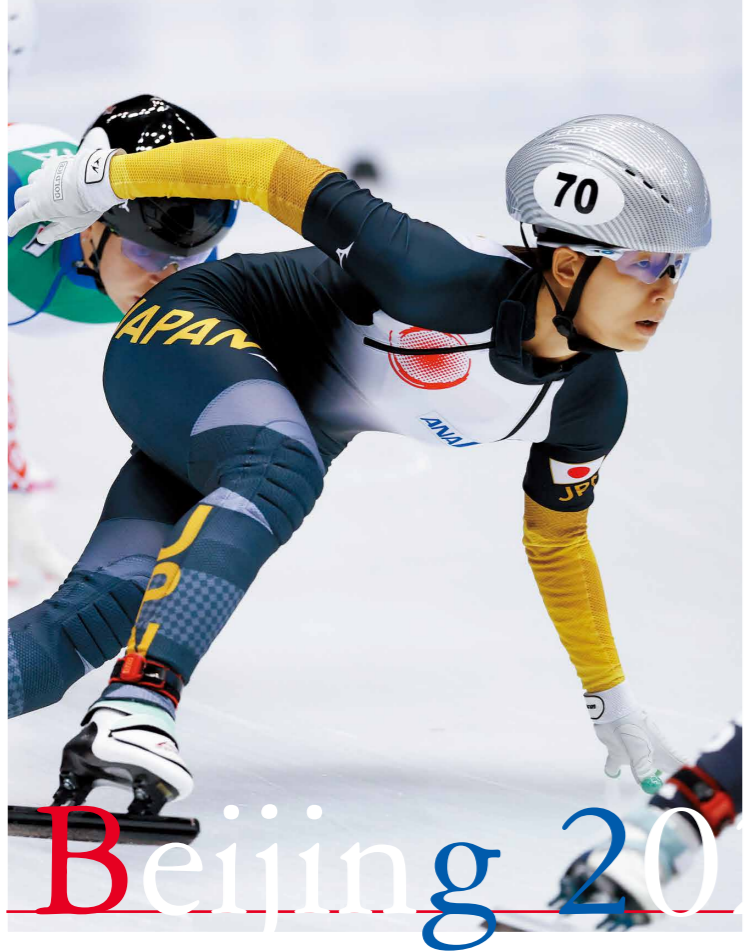
現役生吉永、OG平井が有力

モーグル・スノーボードクロス

堀島、高原が挑む

 CHUKYO UNIVERSITY





Beijing 2022

©フォート・キシモト



場も決まっている。

全日本選手権には、宇野選手、三浦・木原組のほか、男子シングルの山本草太選手(スポーツ科学部4年)、女子シングルの横井ゆは菜選手(スポーツ科学部3年)の出

技会は中止となった。この結果、宇野選手、三浦・木原選手組はともに12月9〜12日に大阪で行われる予定だったGPFファイナル進出を決めたが、新型コロナウイルスの変異株オミクロン株の感染急拡大のため、競技会は中止となった。

HK杯。SPを100点越えてトップに立つと、FSでは4回転ループを見事に成功させて、総合得点290.15の自己ベストで優勝を果たした。NHK杯にはペアの三浦・木原組も出場し、3位に入り、出場のGPシリーズ2戦とも表彰台に立った。

# 中京大学勢チャレンジ 北京冬季五輪代表選考が本格化

2022北京冬季オリンピック・パラリンピックが迫ってきた。今夏開かれた東京五輪のよ

## 男子シングルの宇野 ペアの三浦・木原組 好調!

### フィギュアスケート

もはや中京大学を象徴するスポーツの一つとなったフィギュアスケートは、年末12月22〜26日、さいたま市のさいたまスポーツアリーナで行われる第90回全日本選手権で最終的に日本代表が決まることになる。ここまで代表争いで大健闘し、五輪への期待が高まっているのが、男子シングルの宇野昌磨選手(トヨタ自動車、スポーツ科学部)と、ペアの三浦璃来(木下アカデミー、スポーツ科学部2年)・木原龍一(同、2014年度スポーツ科学部卒)選手だ。三浦・木原両選手は、ペアを組んで3年目の今季、自己ベ

トの更新を繰り返している。2018平昌五輪の銀メダリスト、宇野選手は同五輪後、しばらく低迷が続いていたが、今季、高難度のジャンプに挑み続け、昨季までとは見違えるような出来映えだ。10月23日からアメリカ・ラスベガスで行われたグランプリ(GP)シリーズの開幕戦には、その宇野選手とペアの三浦・木原組も出場した。

宇野選手は第1日のショートプログラム(SP)は89.07点で2位発進し、フリースケーティング(FS)でも堅実な滑りで2位に入った。また、ペアの三浦・木原組はSPを3位発進、FSも3位だったが、合計点208.20で総合順位を2位に上げた。

宇野選手がさらに輝いたのはGPシリーズ第4戦のN

## 現役生の吉永 OG平井が有力

### ショートトラック

ショートトラックスピードスケートの五輪代表選考は、12月18、19日に大阪市の丸善インラック大阪プールアイススケート場で行われる第44回全日本選手権後に行われるが、中京大勢では男子現役生の吉永一貴選手(スポーツ科学部4年)と女子の平井亜実選手(トヨタ自動車、2019年度スポーツ科学部卒)は有力な位置にいる。

シーズンの幕開けを告げる全日本距離別選手権大会は9月25、26日、長野県南牧村野辺山の帝産アイススケートトレーニングセンターで開かれた。ここで吉永、平井両選手は素晴らしいレースを展開。初日最初の種目1500mは両選手で男女の優勝を果たした。続く500mは平井選手が2位、吉永選手は4位だったが、準々決勝で40秒349の日本新記録を樹立した。そして2日目の1000mでも平井選手

は優勝し、表彰式で中央に立った。

大会には、男子の井上瑠汰(スポーツ科学部3年)、女子の高橋花菜選手(同1年)も出場、高橋選手は1500mと500mでB決勝に進出し、3位と2位。井上選手は力強い滑りで1000m準決勝に臨んだが、決勝進出を逃した。



ショートトラック  
スピードスケート/小池佑奈



ショートトラック  
スピードスケート/平井亜実



ショートトラック  
スピードスケート/吉永一貴



フィギュアスケート/三浦璃来



フィギュアスケート/木原龍一



フィギュアスケート/山本草太



フィギュアスケート/宇野昌磨



©フォート・キシモト

### モーグルの堀島 スノーボードクロス高原 代表入りに挑む

#### スキー・スノーボード

フリースタイルスキーとスノーボードにも五輪有力選手がいる。男子モーグルの堀島真選手(トヨタ自動車、2019年度スポーツ科学部卒)とスノーボードクロスの高原宜希選手(Pusco SCS、2019年度スポーツ科学部卒)だ。

堀島選手は、2018年の平昌冬季五輪にも出場している。その前年の2017年世界選手権でモーグル、デュアルモーグルの2種目制覇の実績からメダル候補として期待をされたが、転倒して惜しくも11位に敗れた。しかし、その後の2018〜19年、19〜20年シーズンのワールドカップ(W杯)では連続総合2位という実績を残した。今季は、10月初めにスイスに渡ってからは、スウェーデンでの合宿など、W杯、五輪へ向けて海外で本番に備えている。最大のライバルは、絶対

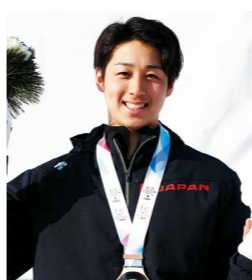
王者と呼ばれるミカエル・キングズベリー選手(カナダ)だ。

W杯初戦は、12月4日にフィンランド・ルカで行われ、堀島選手は3位に。優勝はキングズベリー選手だった。

また、スノーボードクロスの高原選手は、2019年のワールドカップで日本人史上最高の4位と大健闘した。今季はスノーボードクロス競技として日本人初の五輪出場が期待されている。



モーグル/堀島真



スノーボードクロス/高原宜希

## 中京大勢7人が五輪に新たな足跡 東京2020オリンピック

### オリンピックを記憶に残そう

コロナ禍で1年延期となった東京2020オリンピック大会、パラリンピック大会。中京大学勢は7人が競技者として参加した。

いずれも表彰台に上ることはなかったが、各選手はこの1年、厳しい行動制限を受けながら力を尽くしてきた。誰もがそう容易には体験できるものではない五輪への参加は、そ



競泳/小西杏奈選手

れぞれの人生の中に大きな足跡として残ったはずだ。第32回オリンピック

東京大会を振り返り、そんな選手たちの活躍を記憶し、記録として残していきたい。

中京大勢が参加したのは競泳と陸上の2競技で、競泳が日本代表として男子の川本武史(トヨタ自動車、2016年度スポーツ科学部卒)、難波暉(新東工業愛知、2018年度スポーツ科学部卒)、女子の小西杏奈(ガスワン、同)、オマーン代表として男子のアル・アダウィイ(イサ(スポーツ科学部4年)の4選手、陸上競技は日本代表として安部孝駿(ヤマダホールディングス、2013年度体育学部卒)、山本聖途(トヨタ自動車、同)、川端魁人(三重教員AC、2020年度スポーツ



陸上/川端魁人選手

科学部卒)の3選手が晴れ舞台に臨んだ。

中京大勢唯一の入賞者は小西選手だった。女子400メートルリレーで背泳ぎの第1泳者として出場し、決勝進出を果たした。決勝では最下位だったが、8位入賞という実績を残した。また、個人種目の100メートル背泳ぎでは準決勝に進出、さらに混合400メートルリレーにも出場し、予選敗退したものの第1泳者として泳いだ100メートル背泳ぎで59秒58をマークし、自己ベストを更新した。

男子の川本選手は100メートルバタフライに、難波選手

は400メートルリレーの第3泳者で、イサ選手は100メートル自由形で出場したが、いずれも予選敗退した。陸上競技では400メートル障害の安部選手、棒高跳びの山本選手、1600メートルリレーの川端選手も予選通過を逃した。

秒81は、6月のジャパソニーオープンで打ち立てた51秒69のオマーン記録更新は果たせなかったが、オマーン代表コーチを依頼され、東京五輪に臨んだ水泳部の草薙健太コーチはイサ選手を称えた。「前半の50メートルをこれまでの記録より0.5秒ほど早く入った。今、ぐんぐんと実力が伸びている時です」と評価する。また、10月には現役生としてただ一人、東京五輪に参加したことが評価され、梅村清英学長から学長賞が授与された。

### 現役生五輪代表イサ選手 学長賞を受賞

競泳のオマーン代表として

出場したイサ選手。中京大勢唯一の現役生五輪代表でもあった。100メートル自由形予選でマークした51



競泳/アル・アダウィイ選手

## 東海学生リーグ準優勝 全国での戦いへ

### サッカー部

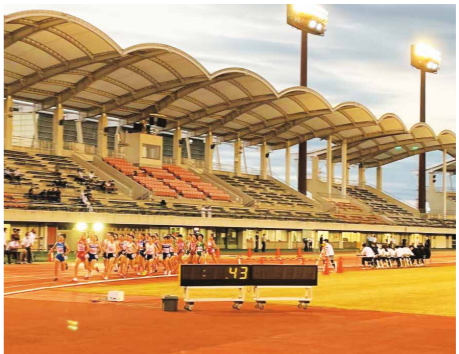
サッカーの東海学生リーグは4月からの長丁場で行われ、中京大学は2位となった。全日本大学選手権への出場権を獲得し、リーグは11月27日に幕を閉じた。1部リーグ12チームで争い、中京



攻撃の中心を担った藤井選手

大の成績は11試合8勝1分け2敗で勝ち点25。優勝したのは東海学園大で、8勝2分け1敗の勝ち点26だった。両チームの最終戦は11月20日に行われた。対戦相手は、中京大が常葉大、東海学園大は静岡産業大で、ここまでの10試合で2位中京大は勝ち点24、トップの東海学園大が勝ち点26。数字の上では逆転の可能性も残っていたが、11月21日、豊田キャンパス中京大学グラウンドで始まった試合は、1-1の引き分けに。東海学園大の結果を待つことなく2位が確定した。

## 3年ぶり35回目全日本大学女子駅伝に出場決定 陸上競技部



陸上競技部女子長距離チームは9月20日、ウエーブスタジアム刈谷陸上競技場で開催された第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東海地区選考会で、2位となり、3年ぶり35回目の全日本大学女子駅伝出場を決めた。

八木明梨(スポーツ科学部4年)は「もう一度、全国に中京大学をアピールするため、チーム丸となり全力を出し切りたい」、長距離ブロック木下勝貴コーチは「各メンバーが自己管理し、練習にしっかりと取り組んだ結果。チームは伸び盛りなので、全国大会では最高の走りができるように頑張ります」と各々意気込みを語った。

## 競泳の日本新記録樹立に中京大勢が貢献

### 水泳部

コロナ禍で中止となった三重とこわか国体の代替大会として、10月30、31日に三重県のスポーツの杜鈴鹿水泳場で開かれた「三重とこわか選手権水泳競技大会」の競泳男子2000メートルレーリレーで、三重県選抜チームが1分37秒64の日本記録を更新。リレーメンバー4選手のうち

ち3人が中京大学勢で、新記録樹立に貢献した。

中京大勢は第1泳者背泳ぎ・宇野柊平(三重トヨベック、2019年度スポーツ科学部卒)、第2泳者平泳ぎ・谷口卓(スポーツ科学部2年)、最終泳者自由形・難波暉(新東工業、2018年度スポーツ科学部卒)の各選手



(左から)宇野選手、谷口選手、阪本選手、難波選手

で、バタフライの第3泳者は東洋大の阪本祐也選手が務めた。

## 2年ぶり20回目の優勝

### アメリカンフットボール部

アメリカンフットボールの東海学生リーグ戦は、中京大の2年ぶり20回目の優勝で幕を閉じた。名城大と全勝同士の対戦となった10月30日の最終戦は、第1クォーターから先行した中京大が42-20でライバル対決を制し、リーグ成績を5戦5勝とした。そしてこれは2001年以来、実に20年ぶりの単独優勝で、今回の快挙に選手たちを導いた畠山大輝監督も単独優勝を味わったのは今回が初めて。「東海の名門」復活を予感させるものもあった。

そして、東海代表として出場した全日本大学選手権では、1回戦で福井県立大(北陸)を破り、2回戦は関西2位の立命館大に7-49で敗れた。

シーズンを終えて山内健士郎主将(スポーツ科学部4年)は「やってきたことを出し



インターセプトを決めたラインバックラー長谷川選手

切りました」と胸を張り、特に印象深いのは「ライバルとして競い合ってきた名城大を圧倒したこと」と振り返った。関西大学OBの西口和宏コーチ(中京大学職員)は、「関西、関東の牙城を破るのも決して無理な話ではない」と言う。畠山監督も「選手たちの気持ち、動きが進化してきた」「ことをしっかりと感じ取っているようだ。」

## 2季ぶり42回目の優勝

### 硬式野球部

硬式野球の愛知大学野球秋季リーグ戦は9月から10月中旬にかけて行われ、中京大学が2季ぶり42回目の優勝を遂げた。秋季のリーグ

優勝は2019年から3年連続となったが、10月末の第52回明治神宮野球大会の出場をかけた愛知・東海・北陸リーグ王座決定戦では、惜しくも中部学院大(東海代表)に敗れ、明治神宮大会への出場は逃した。

リーグ戦中盤、首位に立った中京大は、10月16、17日の最終週で、優勝の可能性を残していた愛知学院大と対戦し、2試合とも快勝。通算成績を10勝1敗1分けとし、計31点を獲得して2位の中部大に4点差をつけての優勝だった。

リーグ戦の閉会式は10月21日、名古屋市のパロマ瑞穂野球場で行われ、中京大に優勝旗が授与された。個人

賞の発表では、注目の最優秀選手賞(MVP)には澤井廉選手(スポーツ科学部3年)が輝いた。

また、最優秀防御率賞を三浦大輝投手(スポーツ科学部3年)が受賞し、さらにベストナイン(指名打者含む)10人が対象)には、三浦投手が

投手部門に、澤井選手と小西敦也選手(スポーツ科学部2年)が外野手部門に、岡田光輝選手(スポーツ科学部2年)が指名打者として表彰された。二塁手は該当者なしだったので、9人のうち4人を中京大勢が占めた。また、プロ野球・阪神タイガースから育成ドラフトの指名を受けた伊藤稜投手(スポーツ科学部4年)が特別賞を受賞した。



優勝を決め歓喜に湧く選手たち

しかし、明治神宮大会への出場を逸したことを受けて、リーグMVPの澤井選手として認められた三浦投手も「来年は春秋ともにリーグ優勝し、全日本大学選手権と明治神宮大会への出場を果たしたい。そのため冬場を大事に過ごしたい」と力を込め、さらに成長していく構えだ。



中京大学は9月8日、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）が新設した日本初となる安全安心認証「UNIVAS Safety and Security Certification（UNIVAS SSC）」制度の認証会員第一号に決まった。

「UNIVAS SSC」制度は、UNIVASが、安全で安心な大学スポーツ活動の環境を整備するため、MS&ADインシチュアランスグループホールディングス株式会社と

連携して構築した日本初の制度である。中京大学は、他に先駆けて認証審査を申請し、運動部を取り巻くリスク全般の洗い出しや、事故の際の体制構築など、安全で安心なスポーツ環境整備に関する項目の評価基準を達成した。

【梅村清英学長のコメント】  
本学は、学生が安全に、かつ安心してスポーツ活動に進めるよう環境を整備してまいりました。今回の「UNIVAS SSC」制度は、大学、競技団体のガバナンス強化や、学生がスポーツで負った重篤な事故に関する補償制度など、私共の日々の取り組みにさらに厚いサポートが受けられるとと考えて申請いたしました。今後も学生が安全で安心した環境でスポーツ活動を行っていくよう精進してまいります。

## 日本初の安全安心認証「UNIVAS SSC」 中京大学が会員第一号に決定

## 試合結果

部活動	大会	結果
バレーボール部(女子)	第68回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会	ベスト32
バレーボール部(男子)	第74回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会	ベスト8
ソフトボール部(男子)	第56回全日本大学男子ソフトボール選手権大会	ベスト4
ハンドボール部	高松宮記念杯 男子第64回・女子第57回 令和3年度(2021年度)全日本学生ハンドボール選手権大会	男子 ベスト8 女子 ベスト16
フェンシング部	第2回日本学生フェンシング・カップ	男子サーブル 第3位 尾矢太陽(スポーツ科2) 女子エペ 第3位 永井杏奈(スポーツ科2)
	第71回全日本学生個人選手権大会	男子サーブル 1位 尾矢太陽(スポーツ科2) 女子エペ 2位 高橋里衣(スポーツ科4) 6位T 永井杏奈(スポーツ科2) 9位 徳島沙恵(スポーツ科4)
	第61回全日本大学対抗選手権大会	男子サーブル 4位 女子サーブル 6位 女子エペ 1位
準硬式野球部	文部科学大臣杯第73回全日本大学準硬式野球選手権大会	ベスト8
ダンス部	第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)	大学創作コンクール部門決選 特別賞 受賞
アルティメット部	文部科学大臣杯第46回アルティメット選手権大会	男子 総合14位 女子 総合10位
ウエイトリフティング部	第67回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会	67キロ級 今井文也(スポーツ科3) スナッチ 10位、 ジャーク 8位、total 8位
陸上ホッケー部(男子)	第20回全日本大学ホッケー大会	準優勝
陸上ホッケー部(女子)	第70回男子・第43回女子全日本学生ホッケー選手権大会	ベスト16
		ベスト8
柔道部	全日本学生柔道優勝大会	男子7人制 2回戦敗退 女子5人制 1回戦敗退
	全日本柔道体重別選手権大会	落合梨杏(総政3) ベスト16
剣道部	第69回全日本学生剣道優勝大会	2回戦敗退
	第40回全日本女子学生優勝大会	ベスト16
空手道部	第65回全日本大学空手道選手権大会	男子団体組手 2回戦敗退 女子団体組手 初戦敗退
硬式庭球部	令和3年度全日本大学対抗王座決定試合	男子 2回戦敗退 女子 2回戦敗退
卓球部	第17回全日本学生選抜卓球選手権大会	任傑豪(スポーツ科2) ランキング9位
ゴルフ部	第58回全国大学ゴルフ対抗戦	7位 スコア579

## 「名古屋スポーツコミッション」が設立 官・民・スポーツ団体連携で地域振興を目指す

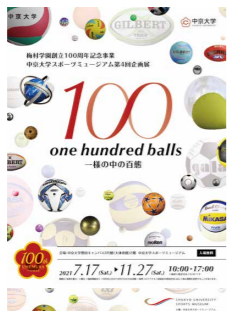


中京大学や中京大学附属中京高校を運営する梅村学園が企画する「名古屋スポーツコミッション」の結団式が9月7日、名古屋市公館で開かれた。

名古屋スポーツコミッションは、スポーツ庁が官・民・スポーツ団体が一体となったスポーツコミッション設置の推進を受けて名古屋市を中心に設立し

た団体で、本学園のほか、中日ドラゴンズ、名古屋グランパスエイト、大同特殊鋼株式会社など、大学、団体、企業が企画。スポーツイベントの開催や大会の誘致、スポーツを通じた地域活性化、新事業創出などを目指し、今年度は「スポーツあふれるまちづくり事業」や「広域公益事業」などを軸にした活動を計画している。

## 「100balls」様の中の百態 中京大学スポーツミュージアム 第4回企画展



梅村学園創立100周年記念事業として、7月17日～11月27日の期間で、第4回企画展「100balls」様の「中の百態」を開催。

世界のさまざまなスポーツのボールを集めたコレクション約500点の中から、選りすぐりの100点が展示された。競技、発祥、大きさ、素材、使い方など、さまざまな視点からボールを見ることで、その多様性や新たな発見に出会える展示となった。

また、今回の企画展は、2023年に100周年を迎える梅村学園の歩みをな

ぞらえている。ボールは、飛び、弾み、回り、転がり、跳ね返る。一見、規則的な軌道を描くように思える球体は、力加減や温度、湿度、風、衝突面による影響を受け、実際には予測の難しい不規則な動きをする。社会の影響を受けて歩んできた学園の歴史に通じるものを、感じ取ることができただろう。

## 中京大学のマスコット チューグル誕生

中京大学のマスコットキャラクター「チューグル」は10月12日、「学術とスポーツの真剣大使」に任命された。チューグルは中京大学のアクセティブカラー（赤・白・青）を基調とした「中京らしさ」を前面に出したキャラクターだ。CHUKYOイイグルのキャラクター化にあたりデザインと愛称を募集し、22作品の応募の中からWeb投票で決定した。今後は様々なイベントや名古屋、豊田両キャンパスに出没する予定だ。



梅村清英理事長と  
中京大学マスコットキャラクター「チューグル」

## 好天の下で笑顔いっぱい 子どもスポーツフェスタにぎわう

「ドキドキ！ワクワク！秋のスポーツ体験!!」をキャッチフレーズに中京大学子どもスポーツフェスタが11月14日、中京大学豊田キャンパスで開かれた。秋晴れの日曜日、会場には一日中、子どもたちの歓声が溢れた。

多くのスポーツ競技に実際に触れてもらうことで、その面白さや楽しさを体感し、また、競技の難しさをも感じてもらえればと、様々なプログラムが企画され、約400人の学生たちが体育会各クラブの各所の運営や指導などに当たった。

プログラムは、オリンピックや数々の実績を残した各競技指導者や、学生アスリートらが子どもたちにスポーツの手ほどきをする教室型、好きなスポーツに触れてみる体験型、展示施設や協力企業の出展ブースなどを自由に見て回れる見学型など盛りだくさんに用意された。中でも、教室型イベントの、かけっこ教室では、青戸慎司・陸上競技部副部長と、2012年ロンドン五輪の女子短距離日本代表として出場した市川華菜さんが指導を担当。親子バレーボール教室では、青戸氏と同じくバルセロナ五輪で日本代表として入賞を果たした青山繁部長・監督が指導を担当した。



## イーグルススポーツスクール開講 待ちに待った子どもたちも笑顔

コロナ禍で開始が2か月余り延期となっていたイーグルススポーツスクールが11月20日に待望の開講を果たした。豊田市と中京大学が運営する「子どもスポーツへのきっかけづくり及び体力向上を図ることを目的とした事業で、主に小学生を対象にしているが、一部、未就学児や保護者向けの教室も用意されている。指導には、中京大学体育会各クラブの学生アスリートや指導者があたる。

11月20日にスタートしたのは「スポーツの基本！正しい走り方教室」で28人が参加、翌21日には「楽しんで体の使い方を覚える運動教室」に21人が参加して週1回、5週間にわたるスクールが開始した。

12月には「親のための子ども運動能力UP講座」や「はじめての野球教室」などの開講が続いている。



## インターハイで女子が3年ぶり 2回目の総合優勝

陸上競技部

陸上競技の全国高校総体（インターハイ）が7月28日～8月1日、福井市の9・98スタジアム（福井県営陸上競技場）で無観客試合として行われ、女子は3年ぶり2回目の総合優勝を飾った。男子は総合7位、女子はまた、トラック競技の学校対抗でも1位だった。

個人種目では、女子800メートルで青山理奈選手（3年）が2分7秒76の好記録で優勝、女子400メートルは4年ぶりに制覇した。男子は高橋遼将選手（3年）が400メートルで優勝。8位までの入賞種目数では、女子はリレー種目を含め8種目にのぼった。男子も3種目に入賞を果たした。



## 松生選手がGPシリーズで健闘

フィギュアスケート

フィギュアスケートのグランプリ（GP）シリーズ第4戦のNHK杯は11月12～14日、東京・国立代々木競技場で行われ、松生理乃選手（2年）は6位に入賞した。12日のショートプログラム（SP）は7位だったが、翌13日のフリースケATING（FS）で

は5位と健闘した。また、11月26～28日、ロシア・ソチで行われたGP第6戦ロシア大会では21日のSPは62・98点で7位スタート、翌27日のFSは121・38点と自身にとって、はもう一歩だったが、



トータル121・38点で8位に入賞した。

## 畔柳投手 北海道日本ハムの指名を受ける

プロ野球ドラフト会議

プロ野球のドラフト会議が10月11日に開かれ、硬式野球部の畔柳亨丞投手（3年）が北海道日本ハムファイターズの5位指名を受けた。

午後5時に始まったドラフト会議のテレビ中継を、畔柳投手は3年生の部員らとともに教室で見守った。日本ハムの5巡目で名前が読み上げられると、会場は歓声に包まれ、「なかなか名前が呼ばれず、指名漏れも覚悟していたので」と、畔柳投手もホッとした様子を見せた。

その後、記者会見に臨み、「プロを強く意識したのは高校に入学してからです。春のセンバツでベスト4という結果を残せて、手応えを感じ、その思いは強くなりました」と語った。また、「5位指名という順位については「何よりも指名していただけて光栄という気持ちです。自分は制球力、変化球の精度などまだまだ

課題も多いです。ただ、プロになつたらドラフトの順位は関係なく、横線のスタートだと思っているので、ライバルたちに負けないよう頑張りたい」と闘志をのぞかせた。

高橋源一郎監督は「彼は中学から日の丸を背負い、センバツでもベスト4と確かな結果を残してきました。本人も課題をきちんと自覚しているんで、その点を磨き、1年でも長く活躍してくれるプロ野球選手になってもらいたい」とエールを送った。



# 中京大学 スポーツチャンネル(公式) YouTube



チャンネル登録  
してグル!



トップアスリートの  
トレーニングの様子や  
インタビューなどが  
見られるグル!!



© CHUKYO UNIVERSITY.

挑戦する大学



発行 / 中京大学 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2  
【広報課】 TEL 052-835-7135 【スポーツ振興部】 TEL 0565-46-6935

